

得

一稿荷大明祿

小友白小友沃村より往て乙友村と稱し
て小石白上屋——今ハ子安といふ
小石の地代もや南朝より飽
海郡吹浦支所なり（赤崎近の地なり）大為忌
社ハ倉稻毫令よりして福荷丸同辨なり
支所ニ至一宇附の地ハ倉稻毫を多々事
務ニ及外社郡一人有熊谷和泉
南朝より赤崎附ニ又此也。

摩訶迦_二出羽_一一之_レ而大菩薩_二子_一也利_レ耶

小石鄉乙友村事在為天下無復別而陸
與出羽直正好德幸幸之狀此件

正平十三年八月晦日
從一位右大臣

源朝臣判

とあり當時の菊期は属一たる事ハ芳子ハ
是生石山の下に住む正平元年ハ貞和二
丙戌はお出。

一子吉飯

十二畫の月なり子吉は有り一記は子吉
修程と云ふは所見なり。